

指導と評価における再構成型コンセプトマップの活用

延岡市立熊野江小学校 中西 英

1 基本的な考え方

これからの評価においては、子どもたちの学習状況を知識や技能などの比較的とらえやすい能力だけでなく、表現力や考え方や学び方も含めて幅広く子どもの能力を評価する方法の工夫と改善が不可欠である。また、子どもの学びの思考過程を見取ったり、子ども自身が自らの考え方や学んだことを振り返ったりするために、これまでの評価方法の工夫と改善のみならず、ITを用いた評価方法の工夫と改善が必要とされている。そこで、コンセプトマップの作成過程を保存し、再生及び修正する機能をもつ再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア「Reflective Mapper あんどう君」(以下、あんどう君)を活用することで、子どもの能力を幅広く評価し、学習指導の改善につながると考えた。



子供の作成したコンセプトマップ

2 企画の実際

第6学年の算数「体積」の学習で「あんどう君」を使用した。まず、概念地図、このソフトの使い方について指導した。子どもたちはパソコンやキーボードの操作に慣れたていたため、問題なく使うことができた。単元の導入前に「体積」について知っていることや関係のありそうなことについて「あんどう君」でまとめた。これは既習事項との関連を把握したり、学習を進めていく中で学びの深まりを促したりするためである。単位時間での活用については、学習したことや分かったことを授業時間の一部を使って「あんどう君」でまとめていく方法をとった。

時間的な制約はあったが、休み時間なども積極的に取り組んだ。また、発表の道具として活用したことの効果が大きく、子どもたちも「自分のまとめ方と人は違うので、友達のまとめ方がよく分かってよかった。」という感想をもっていた。

3 成果と課題

子どもたちのメリットとしては、子ども自身が発表ツールとしての活用を図ることで、学習内容、まとめ方などの相互の理解が深まり、学習意欲が向上した。また、再生機能を活用することで、自らの学びの歩みを振り返ることができるとともに、単位時間毎の学習のつながりを把握することができた。教師側のメリットとしては、学習を進めていく中で、子どもたちがどのようなことに気付いているか、各時間の内容同士のつながりに気付いているか等を把握することができ、知識・理解のみならず幅広い評価を行うことができた。

算数科における単元レベル・1単位時間レベルでの位置づけは、単元の導入前、各時間の一部、単元終了後に「あんどう君」を使用すると子どもたちの学びの変化が把握できると感じた。

今後は、教師の教材研究、事象提示の方法としての活用の在り方や単元の内容、指導時数によってより効果的な活用方法を探っていく必要がある。